

第10回

東大和市社会教育委員会議 会議録

令和5年2月3日（金）

令和4年度第10回東大和市社会教育委員会議のまとめ

- 1 日 時： 令和5年2月3日（金）午前10時～午前11時20分
- 2 場 所： 中央図書館 視聴覚室
- 3 出席委員： 荒川進、外池武嗣、森脇千春、杉本誠一、才郷正次、池田陽子  
石田玲奈、鎌田智義（8人）
- 4 事務局： 高田生涯学習課長、山口主任、村田（会計年度任用職員）（3人）
- 5 議 題：（1）研究テーマの情報収集  
（2）その他
- 6 公開・非公開： 公開
- 7 傍聴者数： 1人

○荒川議長：ただいまより令和4年度第10回東大和市社会教育委員会議を開催します。よろしくお願  
いします。本日、傍聴許可願が提出されておりますので、ここで傍聴の許可についてお諮りします。本  
日の会議について、傍聴を許可することにご異議ございませんか。

○一同：はい。

○荒川議長：ご異議なしと認め、傍聴を許可します。

～傍聴者の入室～

議題に入る前に、お手元の資料の確認をさせていただきます。事務局お願いします。

○山口主任：本日は会議次第1枚でございまして、会議資料や配布資料等ございません。

○荒川議長：それでは、次第に沿って進めたいと思います。本日も新型コロナウイルス感染症対策のた  
め、感染症対策と会議時間の短縮にご協力をお願いします。それでは、議題1「研究テーマの情報収集  
について」を議題とします。東大和高校での勉強会について、どういった内容でお願いするか、話を詰  
めていきたいと思います。次回は、地域のお祭りを立ち上げた盛連会の方から話を聞いて勉強をしてい  
きたいということで話がまとまっております。そちらの次の勉強会として、高校生がどのようなことを  
考えているか理解を深めようという目的で、東大和高校生徒会の高生たちに考え方や普段の過ごし方、  
様子などを聞かせてもらってはいかがだろうかという話になっております。盛連会についても、東大和  
高校についても、具体的に聞かせてもらいたい内容について、事前に検討しておきたいと思います。ま  
ずは、盛連会で立ち上げたお祭りについて、詳細は勉強会で聞きますが、池田委員が知っている範囲で、  
簡単にお聞かせいただいてもよろしいでしょうか。そこから、このようなことを質問したいなど、考え  
ておきたいと思います。

○池田委員：昔、二小の校庭で開催していたお祭りを復活させたいお父さんが中心となり、東大和納涼  
祭り実行委員会を立ち上げました。毎年、商栄会の七夕祭りなどのイベントに参加させてもらい、屋台  
やゲームコーナーのブースを出していました。その後、団体名を盛連会に変更し、やぐらを本格的に組  
んだ盆踊りを復活させ、南街まつりを開催しようという動きになったのですが、新型コロナウイルス感  
染症が蔓延し始めてしまいました。いろいろな機関の補助金を活用する予定でしたが、お祭りが開催で  
きないので返還することも考えました。しかし、「大和音頭はありますが、東大和音頭はないので、せ  
っかくですから作りましょう。」という話になりました。東大和音頭を制作し、大和音頭と東大和音頭  
の2つの音頭でお祭りを盛り上げられれば、楽しいのではないかという話になりました。市内の各小中  
学校で地域の伝統の勉強をする際の教材になったり、地域の人たちに郷土愛が生まれるきっかけになれ  
たらいいと思い、3年前に二小の音楽教師の千田先生にご協力をいただきまして、盛連会も一緒になり、  
作詞、作曲含め、内容を考えました。踊りも東大和市出身のダンサーさんに考えていただき、全て東大  
和市にゆかりのある方に作っていただきました。大人が一生懸命に頑張っている姿を子どもたちに見せ  
ることで、子どもたちに「僕たちも一緒に踊ってみたい。」など、思わせることが一番の目的でして、  
お陰様で、昨年から市内の学校で授業に取り入れてくださっています。「東大和音頭が生まれたきっか  
けの話を聞いてみよう。」といった授業に盛連会を招待して下さったり、「東大和音頭と一緒に踊ろ  
う。」という授業も何度か実施していただきました。もっと浸透していけば、東大和市の子どもたちは  
大人になっても、「この時期は南街まつりがあるから、東大和市へ行こう。」と予定を立て、戻ってき  
てくれるのではないかと期待しています。盛連会は、一度は東大和市を出ていったとしても、「東大和  
市で子育てしたい。」と思ってもらえるまちづくりをしたいと思っています。

- 荒川議長：今の話から、より詳しく聞きたいと思ったことを、勉強会の当日、聞かせていただきましたよう。
- 池田委員：私が盛連会へ加入したのは、東大和音頭を作る話になった後でした。会長は盛連会の発足当初からおりますので、より詳しく聞けるとおもいます。
- 荒川議長：盛連会は地域の商店会のような団体なのでしょうか。
- 池田委員：東大和高校の卒業生や二中の卒業生であるお父さんを中心に、「南街まつりをまた開催したい。」という有志が集まり、始まった団体です。東大和高校の卒業生である伊藤会長が中心となり、いろいろな形でいろいろな人を巻き込み、大きな団体になりました。商店街や元PTA会長、商工会の方など、いろいろな方で構成されています。皆さん、義務的に活動しているわけではなく、二小の校庭にやぐらを建て、盆踊りを復活させ、「毎年、この時期は南街まつりだ。」と定着をさせることを目標に頑張っています。営利目的の団体ではありませんので、いろいろな方からのご好意や協賛、応援をいただいて、維持している団体です。昨年、お祭りを見た近所の自治会からは、「来年は僕たちも協力するから、是非、声を掛けて欲しい。」と言っていており、地域の皆さんにより協力していただけるようになっていくのではないかとおもっています。また、神輿を上げることで、1つになることを目指したいとおもっており、南街睦さんが持っている神輿は、大きい神輿をお持ちになっているようで、たくさんの方が居ないと、簡単には上がらない神輿だそうです。しかし、コロナ禍で、各地から人を集められる状況ではありませんので、今は展示のみしている状況です。いろいろな神輿の伝統を勉強しますと、南街地域には神社がないため、御霊入れはどうするかなど、たくさん学ばせていただきました。新青梅街道の北側には神社がありますので、八幡神社にご協力をいただき、御霊入れをしていただいてから、お祭りを開催するといった伝統も守っております。
- 荒川議長：今の話の中から、各自で質問を用意してください。続きまして、東大和高校の生徒から話を聞くという話で、森脇委員からどのようなことを聞きたいか、案をいただいておりますので、そちらでよろしいかどうか、話したいとおもいます。
- 森脇委員：忙しくて地域活動ができない人もいるかとおもいましたので、「放課後や休日に地域活動をする時間があるのか。」、「時間があっても地域活動に参加しない人の理由は何か。」、「どのような地域活動に参加したいか。」、「公民館や図書館に行くか。」、「家庭や学校以外に居場所があるか。」、「悩み事を相談する相手は誰か。」、「地域に相談する場所があった場合、利用するか。」、「勉強はどちらでしているか。」、「市内で遊ぶ機会はありますか。」、「市内で遊ぶ際はどちらで遊ぶか。」、「市内で遊ぶ頻度はどの程度か。」これらのことをお聞きしたいとおもいます。以前の社会教育委員会議の中で、子どもたちの悩みを歌舞伎町などの市外ではなく、市内で解決したいという話がありましたので、これらのことを聞いてみてはいかがでしょうかとおもいました。
- 荒川議長：事前に質問を高校へ伝えておき、準備をしておいていただこうとおもっています。委員の皆さんが他に気になっていることがあれば、事前に高校へ伝える内容に加えようとおもいます。いかがでしょうか。
- 森脇委員：自分のことだけではなく、周りの友達の様子も教えてもらいたいとおもいます。
- 石田委員：東大和高校へ市内から通っている生徒の割合と、市外から通う生徒の割合も聞きたいです。
- 荒川議長：それについては、学校で把握しているのではないかとおもいます。
- 杉本委員：都立高校ですので、都内の各所から通学しているとおもいます。そういった高校生は授業が終わった後、地元で活動をしているか聞きたいです。生徒会長が全てを把握しているとは思いますが、友達の状態などを聞いてもらえれば良いとおもいます。

○池田委員：アルバイトをしている割合や塾へ行く割合など、そういったことを知りたいです。

○才郷委員：放課後や土日などのお休みの日にどのような生活を送っているか知りたいです。

○荒川議長：外池委員は何かありますか。

○外池委員：次から次へと矢継ぎ早に聞いてしまっただけでは、答えづらいのではないのでしょうか。私には青少年の年頃の孫が4人います。先日の成人式が終わった後の夕方、高田馬場や新宿などで集まっていた。わざわざ東大和市から離れて都心へ行くのはなぜなのか。青少年の立場を想像して考えてみたのですが、青少年の考えは、私には分かり兼ねることが多々あります。皆さんが聞きたいことは分かりますが、そういったことを聞いて、高校生は答えられますでしょうか。答えづらいことを聞かれては、嫌に思うのではないのでしょうか。

○池田委員：青少年たちは、「聞かれないから答えない。」、「興味を持ってくれないから答えない。」だと、私は思います。中学生や高校生、大学生などの子どもたちを見ていると、話し掛けられれば答える子どももいます。成人式に出席する子どもたちの中には、地元がどうしても嫌で、他の地域に遊びに行く子もいると思います。しかし、二中地域の人は、駅前の大きい施設を借りて、二十歳の成人式の後、中学校の同級生で集まっていました。私の場合は、成人式に出席した後、都内へ行きました。私は、高校生になってから東大和市に引っ越してきたので、学生の頃の友人と集まるには、新宿まで行く必要がありました。弟たちは東大和市の小中学校を卒業しているので、成人式に出席した後、近所のお店で友人たちと集まっていました。東大和市の、特に南街地域の人たちの話になりますが、本当に地元が好きで、どちらの年代の人も、地元で遊んでいると思います。子どもたちの方から話してくれますし、大人から話し掛けられれば、話をしたい子どももたくさんいます。私が質問をすると、こぞって話をしてくれ、最後には私に向かって「友達だもんね。」と言うので、驚かされました。そういった子どもたちは、後日、会ったときも「久しぶり。」と声を掛けてくれますし、周りには友達が「誰？」と聞いてきますと、私のことを「友達だよ。」と紹介してくれます。「誰々のお母さん」とかではなく、そういった考えなのだと思います。仲良くなると、子どもたちにとっては、なんでも話せる友達として認識をしてくれるのだと思います。耳を真っ赤にしながら、頑張って大人と話そうとしてくれる子どももいました。中学生や高校生にも、大人と会話したいと思う子どももいるのだと感じます。一見、渋々答えているように見えても、実は、家に帰ってから嬉しそうに家族に報告するといった、内側と外側の顔を子どもたちはみんな持っているのだと思います。こういった会議の場に出てきてもらい、大人と色々な話をすることも、子どもにとって、経験になると思いますので、私としては、是非、高校生から話を聞きたいと思います。

○荒川議長：高校の先生も一緒に参加して下さるのでしょうか。矢継ぎ早に質問してしまうと、高校生だけでは答えづらいこともあると思います。

○池田委員：高校生の年頃ですと、答えることが恥ずかしいときもあると思います。「将来、何になりたいの。」と聞いても、すぐには答えられないこともありますし、思い描いている夢について否定されたり、笑われたりするの嫌で答えなかつたりすることもあります。相手にどう思われるかを気にする子どもが多いのだと思います。

○荒川議長：そちらのことを踏まえ、「答えづらかったら、答えなくても大丈夫です。」など、書き加えて依頼しておいていただきましょう。

○外池委員：「将来、どのような仕事に就きたいですか。」など、会話の中で出ますと、子どもにとっては、とても重い問題なのだと思います。生き方に繋がることですし、子どもにとっては、ずっと考えていることだと思います。そういった心情を大人は酌み取る必要があると思います。

○荒川議長：私の年になりますと、高校生とは縁が遠くなってしまいますので、そういった心情が分からなくなってしまいます。つい、何でも矢継ぎ早に聞こうとしてしまいます。そういったことに留意し、丁寧に質問し、引き出すようにしましょう。高校生はどのようなところで集まるのでしょうか。

○池田委員：高校生たちを駅前で見ることがあります。しかし、下校時刻が遅い高校生が多いので、ずっと同じ場所に留まっている姿は、二中の地域ではあまり見かけません。運動が好きな人は、休日に東大和南公園で友達と一緒に走っていたり、東大和市ロンドみんなの体育館でバトミントンをしている姿は見かけます。体育館の利用は、抽選ですので、利用しようと集まったものの、抽選に外れ、結果、東大和南公園で遊んでいたりもするようです。東大和市の子どもたちは外で健全に遊んでいる人も多くいます。ときには、立川市のららぽーとや武蔵村山市のイオンモールへ行って遊んでいることもあるようですが、二中の地域の子供もたちは東大和南公園で遊んでいることが多いと思います。夏の夜には、花火を楽しんでいたたりもします。

○荒川議長：屋外で遊ぶのもいいですが、悪天候の際は外で遊ばせんね。室内でも気軽に遊べるといいですね。高校生は飲み会のような場はありませんし、図書館では喋ってはいけません。それでは居場所がないと思います。

○池田委員：東大和市駅の南側や遊歩道を少し行った先に集まれるような空間があり、他に集まることができる場がないので、寒い中でも、そちらに集まって話しているようです。地域の人から見ると、夕方の方の暗くなる頃に、急に学生がたくさん集まって、何か分からず不安を感じる人もいるだろうと思います。しかし、悪さをしているわけではなく、私に挨拶もしてくれ、話しているだけの様子でした。

○荒川議長：やはり、青少年の居場所がないのですね。

○池田委員：そうですね。ゆっくり話をできる場がないのだと思います。

○荒川議長：青少年はどのように思っているのでしょうか。居場所がない状況を当たり前と思っているのでしょうか。

○池田委員：自分たちが何を言っても、声が届かないと思っているようです。そういった目で見られてしまっていることも、本人たちは分かっているようです。最近は話せていませんので、以前の話になってしまいますが、注意されることにも慣れてしまっている様子でした。

○荒川議長：児童館を中高生にも開放すると方針が出ましたが、児童館という名前を聞きますと、中高生は入りづらいのではないのでしょうか。そういったところまで配慮していく必要がありますね。

○池田委員：児童館を利用する小さな子どもからしても、中高生が来ることは怖いのではないのでしょうか。

○荒川議長：中高生が10人ほどで行った際に、座ってゆっくり話せる空間を提供できるのでしょうか。大人が居場所を提供していないにもかかわらず、公共の場で集まっているだけで注意されるのであれば、青少年はどのようにしたらいいか分からないと思います。青少年も集まって、ゆっくり話をしたいのだと思います。高齢者のサロンのようなものの、若者版が必要だと思います。

○池田委員：高校生はお金もそれほど持っていないので、お店に入って話をするのではなく、外で話しているのだと思います。その他には、ファミリーレストランにいる姿も見かけます。東大和市の前に若者が気軽に入れるお店が増えると、若者が集まる場所になるのではないのでしょうか。ただ空間を提供しただけでは、若者は集まらないと思います。若者は「インスタ映え」などを求めています。今、東大和市駅の前にあるミスタードーナツの他にもカフェができるといいと思います。立川市のスターバックスでは、結構遅くまで大学生や高校生が勉強していました。1人ずつブースに収まり、自習室のように利用している人もいれば、話している人もいて、各々過ごしていました。

- 森脇委員：東大和市には勉強する場所もないと思います。
- 池田委員：ゆっくり話をする場も、勉強をする場も、打ち合わせのようなことをする場も足りていないと思います。
- 荒川議長：カフェは、長居してもお店から何も言われないのでしょうか。
- 池田委員：お店によっては、「長時間のご利用はご遠慮ください。」と掲示している店舗もありますが、スターバックスの場合は、基本的には長居できるよう、ラグジュアリーな家具が置いてあったり、店舗の空間づくりがされていたりします。そのような、気軽に入れるお店があればいいと思います。期待している方向とは反対に、東大和市駅にあるマクドナルドは数年前に無くなり、居酒屋になってしまいました。
- 森脇委員：私もカフェが増えた方がいいと思います。ハミングホールでイベントに参加しても、終わった後、お茶をする場所があまりありません。
- 池田委員：ハミングホールでイベントが終わった後、セブンイレブンに立ち寄っている人が多いと思います。ハミングホールから東大和市駅へ向かう通りには、カフェがあまりないと思います。
- 才郷委員：今、BIGBOX のスケートリンクに注目が集まってきていると思います。有望な選手がいたり、新しいチームができたなどの話があるようです。そういったところから、だんだん盛り上がっていき、周りにお店が増えていくのではないかと期待しています。最近は、お店の移り変わりが早いようですので、私も、東大和市駅の前としては寂しいと感じております。
- 池田委員：休憩できる場所が足りていないと思います。
- 荒川議長：それでは、これまで青少年課と南街まつりを立ち上げた盛連会、そして高校生に話を聞くというところまで決まりました。その他、公民館からも話を聞いた方がよろしいかと思います。他にいかがですか。
- 外池委員：青少年の居場所の問題について、故郷に気持ちが帰っていくということは、人間の本能で、とても大切なことだと思います。ふるさと教育といいますか、そういった郷土意識はどのように醸成しているのでしょうか。一度、故郷を離れても、また戻ってくる場合があります。東大和市もそのようなまちであって欲しいと思います。
- 荒川議長：盛連会が立ち上げた南街まつりのような年に1回でも人を集めるイベントに、大きな意味があると思います。他にも、学校や同窓会も郷土意識を育てる力を持っていると思います。
- 外池委員：成人式に参加する若者は、旧友に会いに参加しているのだと思います。会って話をしたいという気持ちが強いのだと思います。
- 荒川議長：同窓会ほど特別なイベントでなくても、同級生が5人、10人と集まった際には、母校へ行ってみたいと思うこともあると思います。しかし、現状、卒業生は気軽に母校へ入れない状況ですので、制度的に受け入れてもらえたらいいと思います。
- 池田委員：東大和市では、毎年、決まった時期にロードレース大会や多摩湖駅伝大会を開催してくださっているので、東大和市を出て行ってしまっても、そちらの時期になるとエントリーして東大和市に戻ってきてくれる人もいます。
- 荒川議長：そういった、東大和市へ戻ってきたい人に戻れるルートを整備することも必要なことだと思います。駅伝大会でしたら、例えば、卒業生選抜チームとして出場できたらいいと思います。東大和市は女子マラソン発祥の地ですので、そういったことに結び付けてアピールするのもいいと思います。
- 杉本委員：多摩湖の脇に記念碑が立っています。
- 池田委員：東大和市は、アピールできる部分がたくさんありますので、今、市役所としても、フェイ

スブックやインスタなどの SNS から発信して頑張ってくれていますね。

○鎌田委員：それは、是非アピールをしてもらいたいですね。

○池田委員：市外の人から、東大和市に宿泊施設があるか聞かれることがあるのですが、立川や小平、東村山へ移動しないと宿泊施設がありません、それも、東大和市が盛り上がり欠ける要因の1つだと思います。西武線沿いは宿泊施設が少なく、中央線や青梅線沿いには宿泊施設が多いです。また、「栄えているな。」「頑張っているな。」と思わせる土地は、どちらもイルミネーションが綺麗だと思います。東大和市駅の駅前には寂しいと感じます。噴水も無くなってしまい、東大和市の市章を入れてくださっていますが、ライトアップも特にされていないので、寂しいと思います。ロータリーの内側ですので、遠くから見ることはできません。あちらのロータリーは、昔はユニバーサルスタジオジャパンへ行く長距離バスなどの停留所でしたが、最近は停まらなくなっていました。

○才郷委員：私も長野方面行きのバスなど、何回か利用しましたが、確かに最近は、長距離バスがありませんね。

○池田委員：長距離バスの停留所でしたので、カバンを持って東大和市駅に行けば遠方へ行けていたが、今はもうなくなりました。

○杉本委員：深夜のバスですね。関西へ行く長距離バスは今もあるのではないのでしょうか。

○池田委員：無かったと思います。立川まで行かないと長距離バスには乗れません。東大和市駅の駅前には、広いロータリーがあるのに、なくなってしまって残念です。

○才郷委員：今は、たまに観光バスの発着があるくらいですね。

○池田委員：そうですね。観光バスや地元の人たちがイベント用にチャーターして、乗降をしているだけではないのでしょうか。

○池田委員：東大和市駅の駅前開発も長い期間、見送られていますので、活気がなくなっているように感じます。

○荒川議長：それでは、話も煮詰まったかと思います。公民館から話を聞くに当たって、こういった内容で準備をして欲しいといった意見があれば、事前に伝えようと思いますが、何かありますか。青少年の利用状況といたしましても、具体的に何を聞きたいのかという話です。私は、若者が中心となって運営しているサークルはあるのか聞きたいです。

○才郷委員：公民館によって、部屋の使用頻度の違いもあると思いますので、そういった話について聞きたいです。

○杉本委員：公民館を利用する場合、団体登録をする必要があります。また、利用者全員をグループとして団体登録をしていないと利用できませんが、子どもが利用する場合、毎回、同じ人とだけ集まっているわけではないと思います。個人では申込みができませんので、それも若者が公民館を利用しづらい要因になっているのではないのでしょうか。「利用したい。」と思ったときに、すぐに利用できない状況です。すぐに利用できる場所は、中央公民館であれば、ロビーだけです。しかし、全部の公民館に誰でも利用できるロビーのような場所があるとは限りません。

○才郷委員：当日使える場所があるといいですね。

○杉本委員：制限なく誰でも利用できる時間枠があったらいかがでしょうか。今、申込みは全てオンラインで受け付けています。どちらの枠が空いているかなどは、インターネットですぐに調べられます。申込みは、スムーズにできる仕組みになっていますが、前提として、登録がなくては申込みができません。

○池田委員：各公民館、17時くらいまでしか団体登録を受け付けていないですよ。そうしますと、

高校生はなかなか登録に行けないと思います。そういった間口も少し広げてもいいと思います。

○**杉本委員**：高校や中学校には部活動がありますので、そちらの名前で登録をすれば、部長が卒業しても、次の代の部長が管理をし、そちらの団体として、継続して公民館を利用できると思います。スポーツ系の団体がグループ登録をして、話し合いや談話に公民館を利用しても悪くはないと思います。

○**荒川議長**：では、そのようなことも含め、公民館についての勉強の場の設定をお願いします。それでは、第10回東大和市社会教育委員会議を終了します。次回の開催日は3月14日火曜日午前10時です。ありがとうございました。